

(5) 外国語

ア 研究主題

「英語で表現できる実践的な運用能力を育成するための系統的な指導の在り方」

イ 研究主題設定の理由

グローバル化が進んだ今日の社会においては、国際社会で活躍できる人材を育てることが求められている。国際社会で活躍するためには、海外で通用する英語力を身に付けていることが必要である。中学校及び高等学校学習指導要領解説外国語編では、『聞くこと』や『読むこと』を通じて得た知識等について、自らの体験や考えなどと結び付けながら活用し、『話すこと』や『書くこと』を通じて発信することが可能となるよう、「4技能を総合的に育成する指導を充実する」ことが示された。しかし、平成24年度東京都教育委員会「児童・生徒の学力向上を図るための調査」結果において、「英語を書くこと自体に苦手意識をもっている」とあるように、特に発信力に課題があることが指摘されている。そこで、4技能のうち、自らの考えを相手に伝えるための発信力、コミュニケーションの中で基本的な語彙や文構造を活用する力、内容的にまとまりのある一貫した文章を書く力などの、英語で表現できる実践的な運用能力を系統的に育成することが課題であると考え、本研究主題を設定した。

ウ 研究内容

(7) 身に付けさせたい力

中学校学習指導要領における「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」及び「書くこと」のコミュニケーション能力の基礎、高等学校学習指導要領における「情報や考えなどを的確に理解したり伝えたりするコミュニケーション能力」を基盤とし、特に本研究においては、課題とされている「話すこと」及び「書くこと」の言語活動をより一層充実させる指導法を工夫することにより英語で表現できる実践的な運用能力を身に付けさせることをねらいとした。

(4) 研究仮説

外国語科の指導において、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」及び「書くこと」の四つの領域を相互に関連付けながら、特に「話すこと」、「書くこと」の言語活動を系統的に組み込むことにより、英語で表現できる実践的な運用能力を育むことができるであろう。

エ 1年次の研究

1年次の研究では、外国語科における教師の指導の実態や生徒の学習に対する意識を把握するための調査を行った。その結果から、英語の実践的な運用能力を育成する上で、授業における英語の使用度を改善する余地があること、英語の4技能のうち、中学校では「書くこと」、高等学校では「話すこと」の活動を十分に行うこと、また、授業における目標を生徒が十分に理解できるように明示することの3点が課題として挙げられた。

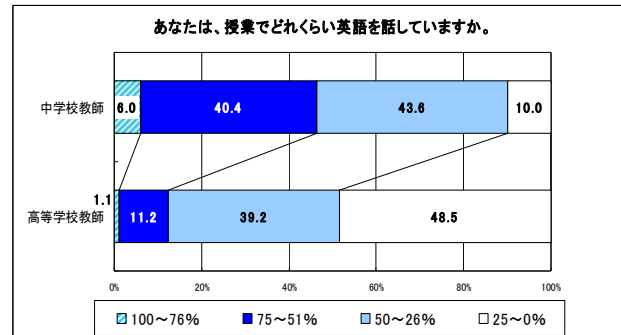
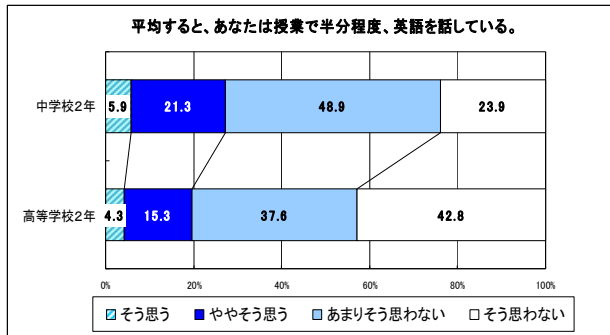
オ 2年次の研究

1年次の研究を受け、実践的な運用能力に関する系統表を作成し、それに基づいて検証授業の目標を明示できるようにし、中学校、高等学校における系統的な運用能力の育成を目指した。また、実践的な運用能力の育成を図るための指導の手だてを「英語の使用度を高めること」及び「学び合いの場の設定」とし、各教科共通の手だてとともに単元計画に位置付け、「話すこと」「書くこと」に重点を置いた検証授業を行い、その分析・考察を行った。

カ 1年次の調査結果及び分析・考察

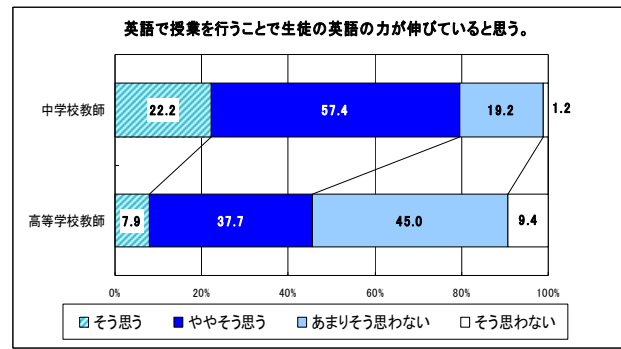
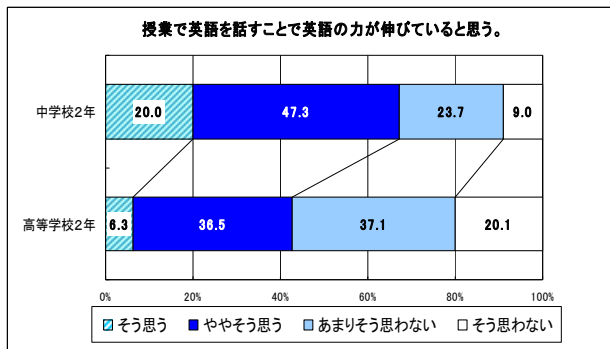
1年次の調査結果から、研究主題に迫るための手だての開発に関連の高いものを以下に記す。

(7) 授業における英語の使用度について



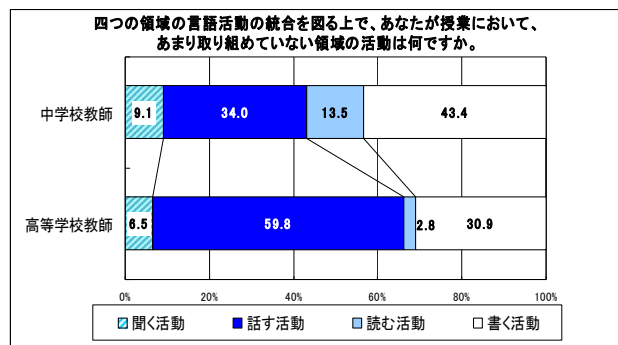
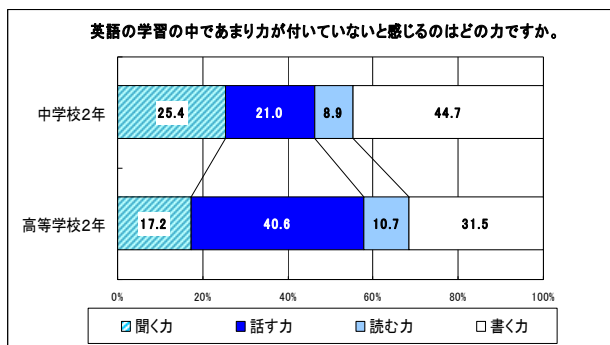
分析 生徒の立場からすると、中学校では約70%、高等学校では約80%の生徒が、日本語が半分以上使用されている授業を受けている。また、授業で半分以上、英語を話していると回答した教師の割合は中学校では46.4%であったが、高等学校では12.3%に下がっている。

(イ) 英語の使用に対する生徒及び教師の意識



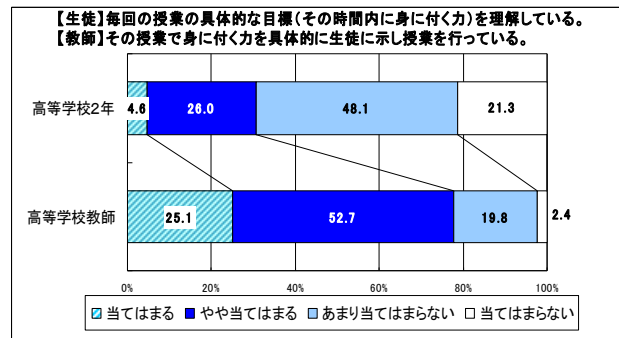
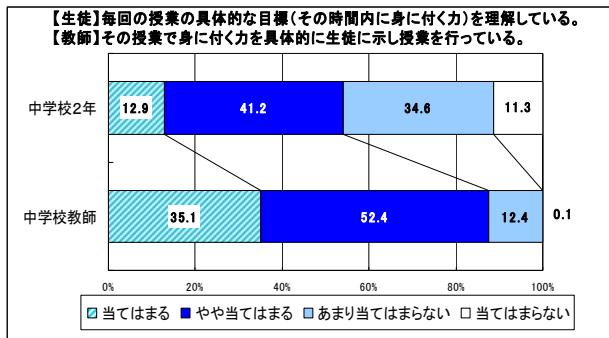
分析 英語の使用と英語力の伸長を結び付けて考えている割合は、中学校では生徒は67.3%、教師は79.6%になっており、高等学校では、生徒は、42.8%、教師は45.6%になっている。中学校と高等学校とを比べると、生徒、教師共に高等学校の方が割合が低くなっている。

(ウ) 各領域に対する生徒及び教師の意識



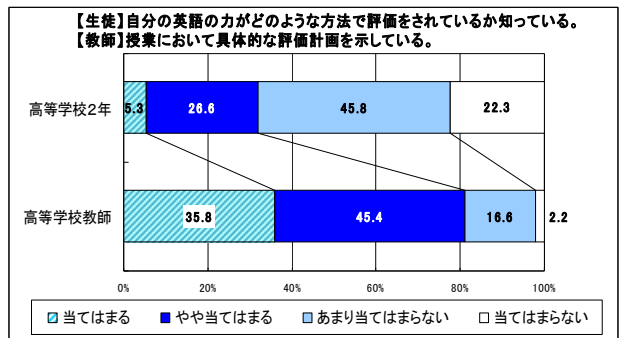
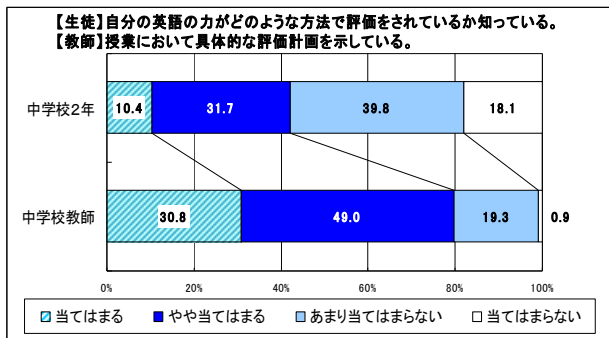
分析 4技能の習得について、中学校、高等学校共に生徒と教師とで同様の傾向が見られ、特に、中学校では書く力、高等学校では話す力が十分ではないと感じている。

(エ) 授業のねらい（その時間内に身に付く力）に関する生徒及び教師の意識について



分析 授業のねらいに関する生徒と教師の意識には、中学校、高等学校共に大きな開きがある。教師としては授業の目標を明示していると認識しているが、実際には生徒にその目標が十分に伝わっていないことを表している。特に高等学校においては生徒と教師の意識の差が大きい。

(オ) 授業における評価に関する生徒及び教師の意識について



分析 生徒の意識と教師の意識には大きな差がある。教師は具体的な評価計画を示していると思っているが、生徒は自分の英語の力がどのように評価されているのかを、あまり理解していない。

調査結果からの考察

- 実践的な運用能力を高めるためには、中学校段階から、英語を多く用いた授業を行うことが求められる。生徒が授業の中で英語をより多く使用できるような指導の工夫を開発することが必要である。
- 中学校では「書くこと」、高等学校では「話すこと」の言語活動を、他の領域の言語活動と関連を図りながら、これまで以上に充実させることが必要である。
- 授業を通してどのような英語の力が身に付くのかを生徒に十分に理解させ、目的意識をもたせて授業に参加させることが大切である。また、確かな力を身に付けさせるために、単元や1単位時間の授業の終わりに学習の振り返りを行うとともに、生徒に英語の力がどのように評価されているのかを理解させることも必要である。

キ 外国語科における研究主題に迫るための手だて

調査結果の分析・考察から、次のような学習活動を取り入れることが大切であると考え、研究主題に迫るための手だてを開発した。

- 実践的な運用能力を身に付けさせるために、英語使用の機会を十分に確保すること
- 言語活動を充実させるために、学び合いの場を取り入れること
- 「話すこと」、「書くこと」の指導の充実を図ることにより、4技能の統合を図ること
- 授業におけるねらいに加えて中・長期の学習到達目標を生徒に明示すること

＜外国語 研究主題に迫るための手だて＞

	手だて	内 容
外国語科で設定した手だて	I 英語の使用度を高めるための手だて	○教師と生徒の英語でのやりとりを増やし、英語を話す雰囲気作りを発達の段階に応じて行う。 ○生徒同士のペアワークやグループワークを英語で行う手法を取り入れる。
	II 学び合いの場の設定	○ペアワークやグループワーク等を多く取り入れて相手を明確にした言語活動を行い、生徒同士の学び合いの場を設定する。
各教科共通の手だて	① 中・高の系統的な指導	○系統表を活用し、授業のねらいを明確にするとともに、中学校では語のつながりに注意してまとまりのある文章で、高等学校では段落を意識して論理的に自己表現できるよう指導する。
	② 興味・関心の喚起	○系統表を活用し、単元や本時の目標を明確に提示するとともに振り返りを行い、達成感を実感できるよう指導する。 ○扱う題材を工夫したり視聴覚教材を用いたりする。
	③ 言語活動の充実	○相手意識や目的意識及び場面意識をもたせた言語活動を設定するとともに、自己表現の機会を多くもつ学習活動を設定する。
	④ 実生活とのつながりの明確化	○文法の説明のみで終わるのではなく、自分に置き換えて考えたり、実生活での場面を設定した上で英語を使用する学習活動を位置付け、「話すこと」「書くこと」に重点を置きながら指導する。
	⑤ 学習習慣の確立（主体的な学びの促進）	○「英語で表現できる実践的な運用能力」という目標に到達するための学習方法を具体的に示す。
	⑥ 評価の工夫	○指導と評価を一体化させ、「話すこと」「書くこと」について、単元のはじめと終わりに発表や記述の場面を設けるなど工夫し、生徒の変容を評価する。また、生徒による自己評価を活用する。

ク システム表の内容及び活用について

(7) システム表の内容

英語の運用能力を育成するためには、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」及び「書くこと」の4技能をバランスよく育成することが重要であることから、4技能についてのシステム表を作成した。また、運用能力の育成のためには、4技能を統合して用いる能力の育成も重要と捉え、4技能の統合もシステム表に組み入れた。システム表の内容については、中学校学習指導要領解説（平成20年）、高等学校学習指導要領解説（平成22年）に基づき、能力に関する内容を整理して各段階で身に付けさせたい力を具体的に示した。（システム表は136、137ページに掲載）

(イ) システム表の活用

このシステム表を活用し、単元や1単位時間の授業のねらいを教師が確認して授業を構築することにより、6年間を見通した英語の運用能力の育成を図ることができる。また、授業のねらいを「身に付ける力」として生徒に明示することにより、生徒が目的意識をもって授業に臨むことができ、確かな力の定着につなげることができる。

ケ 検証授業

研究主題に迫るための手だての有効性を検証するために、外国語部会では、以下の検証授業を行った。

<検証授業>

校種	学年	単元	内容
中学校	第1学年	I like Kendama.	自分の好きなことについてスピーチをする。
中学校	第2学年	日記を書こう	特別な日について日記を書く。
中学校	第3学年	Houses and Lives	日本の文化を紹介する。
高等学校	第1学年	英語表現 I 不定詞（1）	不定詞を使って冬休みの計画を話す。
高等学校	第2学年	英語Ⅱ（旧課程） Wilderness in a Bottle	シードバンクについてグループで意見をまとめる。
高等学校	第3学年	リーディング（旧課程） Future of English	英語の多様化についてグループで意見を交換する。

コ 分析・考察

英語の運用能力を高めるためには、教師が英語で授業を行うとともに、生徒が授業で英語を使う機会も多く設定することが必要である。1年次の調査結果からも明らかになっているように、授業中の英語の使用度は、中学校、高等学校ともに十分ではない現状がある。検証授業では教師は英語で授業を進め、生徒が英語を使ってコミュニケーションをとることに重点を置いた活動に取り組んだ。

手だて：「英語の使用度を高めるための手だて」と「言語活動の充実」

◇ 生徒の英語の使用度を高めるための活動

生徒が、1時間が終わった後に「たくさん英語を話した」という達成感を感じるように、検証授業の中に多様な活動を取り入れた。授業に位置付けた活動は、次のとおりである。

○ 英語を話す雰囲気をつくる活動

【クラスルームイングリッシュの活用】

クラスルームイングリッシュの活用は、英語でコミュニケーションをとる実践的な機会である。例えば、「遅れてごめんなさい。(Sorry, I'm late.)」「プリントをもう1枚下さい。(Give me one more sheet of paper.)」など、実生活の場面で生徒が伝えたいことを英語で伝えられる機会になる。クラスルームイングリッシュの小テストを行って定着を図り、授業内で生徒に使用させるよう働き掛けることもできる。さらに、振り返りシートに記述欄を設けるなど工夫し、「授業の中で英語で言いたかったが、言えなかったこと」を記述させ、その言葉をクラスルームイングリッシュの生徒用の一覧に反映させていくことで、さらに生徒の意欲を向上させることができる。

【「話すこと」の言語活動から「書くこと」の言語活動へ】

生徒が間違えても訂正を最小限にし、コミュニケーションがとれていることを褒めた。また、多くの授業では「話す」活動の前に「書く」活動で話すことの準備をするが、検証授業では最初は正確でなくてもよいから、まず英語を使って話すことが大切であるという雰囲気を作り、何が話せないかに気付かせた後、「書く」活動を行った。

【教師の指示に対する反応の習慣化】

教師は、英語で指示を出したのち、Yes/No, All right など生徒に必ず反応をさせた。

○ 単語・表現等の定着のための活動

【視聴覚教材の活用】

フラッシュカードを用いたり、ICTで次々に単語を表示したりしながら、生徒に単語の反復練習をさせた。

絵や実物を教具として用いて、実際のコミュニケーションに近づけた活動を行った。

【ペアワークの活用】

反復練習をペアで行うことで、生徒の練習回数を増やすことができた。

○ 自分を表現する活動



グループワークの様子

【ペアワークの複数回の活用】

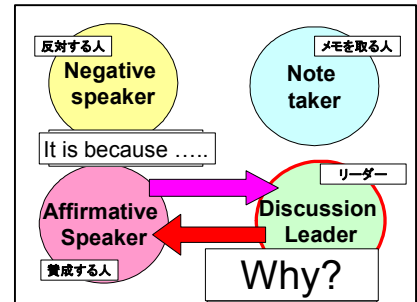
自分の作った英語のスピーチをペアで練習した。ペアの相手を変えることで、よりうまく伝えられたり、新しい情報を聞き取ろうとしたりする様子が見られた。

【グループワークを英語で実施】

高等学校のディスカッションの授業では、グループ内で分担し、司会者、賛成する人、反対する人などの明確な役割を与えることで、議論を英語で行うことが可能になった。

【伝わることに重点を置いた評価】

話した英語の正確さよりも、内容が伝わったかどうかについて評価されることを生徒が知ることによって、間違いを恐れずに話すことができた。



グループワークでの役割

◇ 教師の英語の使用度を高める工夫

【自然な速さの英語を使った発問や指示】

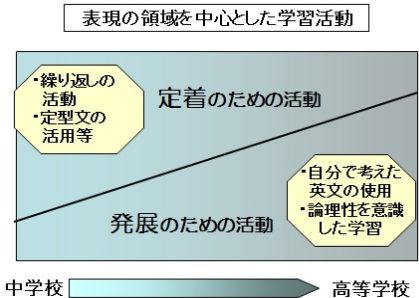
検証授業では、基本的に英語のみで授業が行われた。どの授業でも共通して、教師は英語のスピードを落とさずに自然な口調で話しており、生徒はその速さに慣れてきている様子が見えられた。基本的な授業の流れを一定にし、英語での発問や指示を習慣化させることで、教師の英語の使用度も高めることができる。

【ICTの活用による学習活動の図式化】

活動が複雑になると、説明を日本語で行わないと活動自体が成立しない場合がある。検証授業では、ICTを活用して複雑な活動を図式化して提示し、英語で説明を行えるように工夫した。

◇ 言語活動の段階性

言語活動の内容について、中学校と高等学校の段階性を意識した。中学校では、単語や文法、表現などの言語材料の定着に関する言語活動の割合を多く、学年が上がるにしたがって自分の考えを述べる活動を増やす指導を計画した。また、中学校では、主に身の回りのことや体験したことについて述べる活動が生徒の発達段階に合っていたが、高等学校では、中学校で育成された基礎の上に、自分の考えを根拠を示しながら述べたり、意見を交換しまとめたりする活動を中心に授業を組み立てた。題材には、体験したことだけでなく、一般的な事柄や社会的な問題も扱った。



◇ 実生活に結び付いた言語活動

相手意識をもたせる言語活動を行うことによって、実践的な運用能力を身に付けさせることができた。相手を設定することで、「読めないと困る」と読む練習に熱心に取り組む姿や、発表練習において聞き手を意識した話し方をする姿が、生徒の変容として確認された。新聞記事を各生徒が持ち寄って説明するグループワークでは、聞き手は自分の知らない情報を聞こうとし、話し手は分かりやすく伝えようとする様子が見られた。また、振り返りシートの感想からも、「自分の英語が伝わってよかった」、「友人の英語を聞くのが参考になる」など、英語を使ったコミュニケーション活動を通じて学習が深まっている

ことが分かった。

＜相手意識をもたせた言語活動例＞

- ・自己紹介文を書く活動 → 「ALTに自己紹介をする」ことを目標にペアで練習する。
(ALT: Assistant Language Teacher 以下「ALT」と略す)
- ・将来の夢について伝え合う活動 → 「ペアの相手の将来の夢を発表する」ことを目標にペアで伝え合う。
- ・賛成・反対を述べる活動 → 「テーマについてグループで賛成・反対の意見をまとめ、発表する」ことを目標に各自が根拠資料を持ち寄り、グループごとに英語でディスカッションする。

手だて：「中・高の系統的な指導」の実施

◇ 系統的な指導の重要性

系統表を活用することは、生徒が前段階でどのような能力を習得してきたのか、次にどのような能力を身に付けさせるのかを教師が理解することにつながり、英語の運用能力を伸ばすための授業の構築に非常に有効であった。中学校では、高等学校に向けて習得させたい能力について、スモールステップを示しながら段階的に指導できるようになった。高等学校では、中学校での活動との相違を意識しながら、指導計画を立てることができた。生徒にとっても、上の学年や上級学校における学びの違いを知り、学習における次の自分の姿をイメージする上で役立ち、今学ぶべきことを理解して授業に臨むことができた。

＜生徒の反応＞

中学校1年生

スピーチの練習場面で、ALTのモデルスピーチを熱心に見ていた。have、play、likeを使って自分のことを表現できることを知った。その後、教師がスピーチに対する評価規準を示すことにより、生徒はモデルに近づくために今すべきことを理解し取り組むことができた。

中学校2年生

高校生が文化祭について書いた英文日記を読んで、分からない単語があっても、辞書で引いたり、教師に質問をしたりしていた。一つのことについて詳しく述べている英文を読んだ後で、本時の目標の「一つのことについて詳しく述べるために1文を加える」という目標を改めて理解することができた。



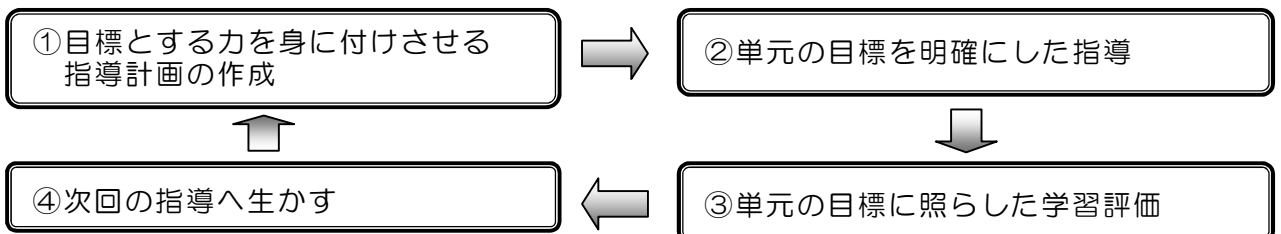
ALTのスピーチを熱心に見る様子

◇ 身に付けさせる力の明示

本研究では、系統表の中から「話すこと」、「書くこと」の部分を目標に含めるようにし、単元や毎時間の授業で身に付けさせる実践的な運用能力を明確にした指導を行った。教師も、一つ一つの学習活動を、目標に向かって具体的に組み立てられるようになった。また振り返りを行うことで、指導と評価の一体化が図られた。生徒は授業後の自分の姿をイメージすることができ、見通しをもって学習に取り組むことができた。また、授業の最後に行った振り返りの活動により、生徒自身が身に付けた力を確認することができたり、自分の課題を発見することができたりするなど、主体的に学ぶ態度を身に付けさせるきっかけとすることができた。

「自分の大切なものについてスピーチをすることができる。」

授業の初めに掲示した目標



その他の研究主題に迫るための手だて

- 「学び合いの場の設定」については、検証授業では、学び合いによる生徒同士のよい影響の与え合いが顕著に見られた。最初は1文も言えなかった生徒が、ペアの相手に教えてもらい自分のつまずきに気づき、2文まで言えるようになったり、英語が得意な生徒がペアの相手に教えたりする姿が見られた。グループで英作文を回して読む活動では、文法の間違いの指摘が行われるだけでなく、感想を述べ合うなどしていた。また、グループ活動を取り入れると、クラス全体に発問する時よりも意見がよく出るようになった。このように、文法などの言語材料の定着や、内容面に関して生徒同士が影響し合う姿が見られた。
- 「興味・関心の喚起」については、目標の掲示、提示した教材や使用したワークシートなど、様々なものが生徒の興味・関心を高めていることが、検証授業の生徒の反応から確認できた。
- 「実生活とのつながりの明確化」を意識した教材や題材により、生徒が話したり書いたりする活動に取り組みやすくなった。検証授業からは、自分のことを伝えたい、という気持ちを多くの生徒がもっていることが、辞書の使用頻度の増加や自己表現の内容が詳しくなることから確認できた。
- 「学習習慣の確立」については、「書くこと」に重点を置いた授業により、辞書を活用する生徒の増加につながった。「話すこと」に重点を置いた授業でも、家庭での音読練習や、他人に伝えるために読む練習をしてくる生徒が見受けられるようになった。
- 「評価の工夫」については、「振り返りシート」を用いて目標の達成を生徒が自己評価することで、教師が指導と評価の一体化を図ることができただけでなく、生徒自身が学習の達成感を得たり、自分の課題を把握したりすることができた。

	振り返る内容	◎○△
1	授業全体を通して、それぞれの活動に積極的に取り組もうとした。	
2	先生の話や友達の発言をしっかりと聞こうとした。	
3	4月～5月に行った自己紹介文と比べて、より自分らしさが伝わるたくさんの内容を書くことができた。	
4	自己紹介文を友達に理解してもらえるように、ていねいに伝えることができた。	

	評価項目	◎○△
1	授業を通して、積極的に英語を使おうとした。	
2	情報や自分の考えを伝えようとした。	
3	情報やパートナーの考えを積極的に理解しようとした。	
4	自分の考えの根拠を伝えることができた。	
5	グループのメンバーと協力して活動ができた。	

【振り返りシート感想例】 中学校

- ・ 4、5月の時よりすらすら言えて、英語の力が付いたのかな、と思った。
- ・ 前より言える単語数が増えたから自分のことを詳しく伝えることができた。
- ・ これからは言えるだけでなく書けるようになりたい。
- ・ 次回、もっとまとめて相手に伝えやすく工夫したい。

【振り返りシート感想例】 高等学校

- ・ できるだけ何も見ずに自分の意見を簡単な言葉で伝えることができた。
- ・ 英語を使おうと意識した。
- ・ もっとしっかりした根拠を調べるべきだった。
- ・ 友人の意見を聞くのが刺激になった。
- ・ 自分の意見が伝わったみたいでよかった。
- ・ 自分の意見を言うのは難しかったけど、周りに手伝ってもらった。

サ 成果と授業改善の提案

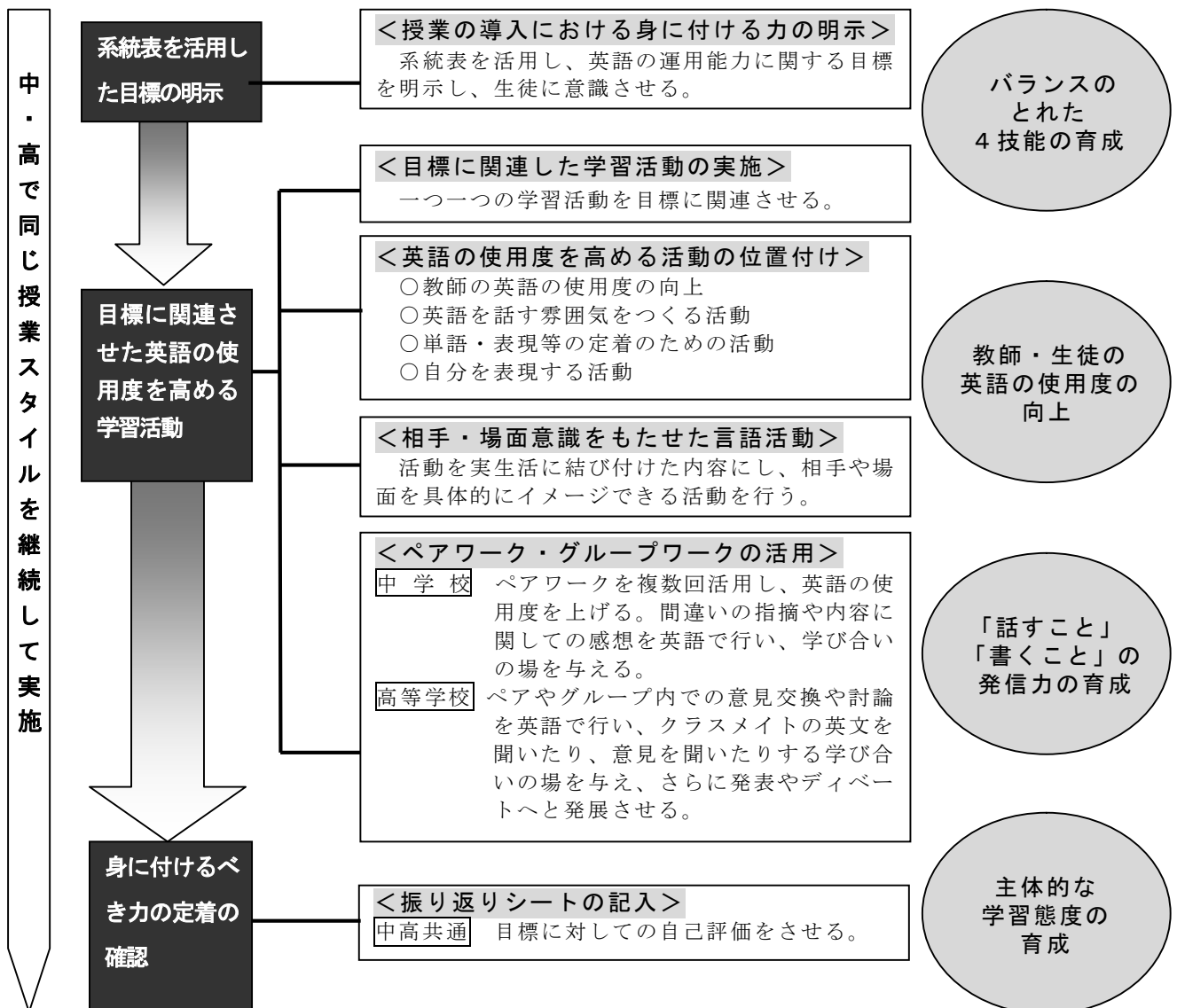
成果

- 設定した手だてを指導計画の中に位置付けたことにより、生徒が相手意識や場面意識をもって英語を使用する時間が格段に増え、運用能力の育成につながった。授業の振り返りでは、「あなたは授業で半分以上英語を使っているか」という質問に対し、80%の生徒が「そう思う」と答えており、運用能力の向上につながる記述が多く見られた。
- 系統表の活用により、「話すこと」、「書くこと」の能力を含めた4技能を結び付けた目標設定が、より容易にできるようになった。身に付けさせたい力を明確にすることで、教師が指導計画を改善できるとともに、生徒が自己評価を行うこともでき、主体的な学習に結び付く態度を身に付けさせることができた。

授業改善の提案

実践的な英語の運用能力を身に付けさせるために、本研究で明らかにした手だてを位置付けた1単位時間の授業の流れを、以下に示す。

＜実践的な英語の運用能力を身に付けさせる1単位時間の授業の流れ＞



外国語1 中学校 「I like Kendama.」

第1学年

【本単元の概要】

英語の学習の開始に当たり、身近な話題をテーマとして生徒の興味・関心を高めるとともに、実生活とのつながりを分かりやすく位置付けた単元である。また、小学校の外国語活動との接続も図り、小学校で扱った英単語を活用して授業を行うよう工夫している。学び合いの学習活動として、ペアワークを多く取り入れる工夫も行っている。

【系統表との主な関連】

- ・ 身近なテーマについてスピーチをすることができる（「話すこと」1③）。
- ・ 語と語のつながりに注意して書くことができる（「書くこと」1③）。

1 単元の目標

好きなものや大切にしているものなどについて、スピーチをして紹介することができる。

2 単元の評価規準

ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
① 教師や友達の話す英語を聞き取ろうとしている。 ② 話すことの言語活動において、できるだけ多くの情報を伝えようとしている。	① 自分の好きなものや大切にしている物を相手に内容が伝わるように、スピーチしている。	① 好きな物、大切な物の紹介スピーチを聞いて、内容を正しく理解できる。	① have, like, play, useなどの一般動詞の意味と使い方について知識が身に付いている。 ② 一般動詞を使ったWhatの疑問文と答え方についての知識が身に付いている。

3 本事例における研究主題に迫るための手だて

	手だて	内容
手だて 外国語科で設定した	I 英語の使用度を高めるための手だて	○ペアワークを活用し、英語の発話の機会を増やすとともに、英語を話すことに慣れさせる。 ○教師・生徒と、生徒同士の相互の会話を行い、英語を使う場面を多く設定する。
	II 学び合いの場の設定	○ミニプロジェクトで生徒同士が教え合う場を作る。 ○生徒同士の相互評価をさせる。
各教科共通の手だて	① 中・高の系統的な指導	○系統表を活用し、現在学習していることが全体のどの位置付けになるかの見通しをもたせる。また、「書くこと」の目標の1つである、語と語のつながりに注意して自己を表現できるように指導する。
	② 興味・関心の喚起	○系統表を活用し、目標を明示し、振り返りを行うことによって達成感をもたせる。 ○フラッシュカードなどの教材を使用する。
	③ 言語活動の充実	○使用教材を用いて、自己を表現するスピーチにつなげる。
	④ 実生活とのつながりの明確化	○モデル文を活用し、実生活に関する内容をスピーチさせる。

	⑤ 学習習慣の確立 (主体的な学びの促進)	○英語学習の入門期としての家庭学習の定着を図るため、ノートのとめ方を指導するとともに、教科書の復習音読、本文の筆写、教科書問題集に取り組み、さらに家庭学習記録をつけさせることにより、学び方の定着を図る。
	⑥ 評価の工夫	○音読、スピーチの内容が変容しているかを評価し、適切な振り返りの機会を与える。

4 指導計画（6時間扱い）

次	時	学習のねらい	学習活動 研究主題に迫るための手だて	評価規準 (評価方法)
第一次	1 (展開例)	<ul style="list-style-type: none"> 一般動詞の肯定文の意味・用法が分かる。 好きな物や大切にしている物についてのスピーチを練習し発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○一般動詞の肯定文の導入と練習 ○Part 1 本文の導入 ○本文を利用したスピーチの準備・発表 <div data-bbox="655 658 1230 1032" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【共通①系統性】 小学校で音声で慣れ親しんだ have、like、play について復習をする。</p> <p>【共通③言語活動】 スピーチをさせる。</p> <p>【共通④実生活】 英語で自分の好きなことを伝えさせる。</p> <p>【共通⑥評価】 前回の自己紹介と比べ、たくさんのが語られているか、習った語を正しく使えているかを確認する。</p> <p>【共通⑤学習習慣】 復習の仕方の指導をする。</p> </div>	アー① (行動観察)
	2	<ul style="list-style-type: none"> 一般動詞の疑問文の用法が分かる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○スピーチ発表：好きな物、大切な物 ○Part 1 の復習 ○一般動詞の疑問文の導入と練習 ○Part 2 本文の導入 <div data-bbox="655 1196 1230 1352" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【共通③言語活動】 スピーチをさせる。</p> <p>【共通④実生活】 英語で自分のことを伝えさせる。</p> </div>	アー② (行動観察)
	3	<ul style="list-style-type: none"> 一般動詞の否定文の用法が分かる。 What do you have ~?などの疑問詞を含む疑問文を作ることができ、また、その疑問文に答えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○スピーチ発表：好きな物、大切な物 <div data-bbox="655 1420 1230 1632" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【共通①系統性】 自分の身近なことについて言えるようにし、自らの考えなどを伝える高校での活動につなげていく。</p> <p>【共通③言語活動】 スピーチをさせる。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○Part 2 の復習 ○音読テスト ○一般動詞の否定文の導入と練習 ○What を含む一般動詞の疑問文の導入と練習 ○Part 3 本文の導入 	エー① (小テスト)

第二次	4	<ul style="list-style-type: none"> 一般動詞の用法と be 動詞の用法を比べながらまとめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> スピーチの発表：好きな物、大切な物 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【共通③言語活動】 スピーチをさせる。 【共通④実生活】 自分のことを伝えさせる。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> Part 3 の復習 教科書の「文法の要点」を使った be 動詞と一般動詞の違いのまとめ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【共通⑤学習習慣】 ノートへのまとめ方を指示し、復習の仕方を指導する。</p> </div>	ウー① (行動観察)
	5	<ul style="list-style-type: none"> 小テストを行い、学習内容の定着度を教師と生徒の双方が把握する。 第2回の自己紹介スピーチを準備する。 	<ul style="list-style-type: none"> スピーチの発表：好きな物、大切な物 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【共通③言語活動】 スピーチをさせる。 【共通④実生活】 自分のことを伝えさせる。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 単元テスト：語彙、文構造のまとめ ミニプロジェクト：第1回の自己紹介で表現できなかったことを加えての発表内容の準備 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【教科Ⅱ】 ミニプロジェクトを行う。</p> </div>	エー①② (小テスト)
第三次	6	<ul style="list-style-type: none"> 自己紹介スピーチをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己紹介スピーチ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【共通①系統性】 語と語のつながりに注意させ、文と文のつながりへの基礎を築く。 【共通③言語活動】 自分についてスピーチをさせる。 【共通④実生活】 自己紹介をさせる。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 生徒同士の相互評価 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【共通⑥評価】 変容を見る。 【教科Ⅱ】 生徒同士に相互評価をさせる。</p> </div>	イー① (スピーチの観察)



ペアワークの様子

< 事前に書きたい物についてアンケートをとり、
反映させたワークシート >

My favorite thing

Class No. Name

★授業で練習した自分のスピーチを書いて、まとめよう。

a ball/ a cap/ a CD/ a uniform/ a book/
a comic book/ a medal/ a racket/
a glove/ a pair of shoes/ a magazine

① Hello.

② 持っているものを紹介する文
| _____

③ 次に「これがその～です」と見せながら説明する文

④ その他の情報をできるだけたくさん書こう。

⑤ Thank you for listening.

5 展開例 第1時

(1) ねらい

- ・積極的に、英語を使用する。
- ・have、like、playなどの一般動詞の肯定文を、語と語のつながりを理解して使用する。

(2) 展開

○学習活動		【評価規準】(評価方法) ○留意点 研究主題に迫るための手だて
導 入	1 挨拶をする。 出席、日付、天気を言う。本時の目標を知る。 2 ウォームアップとして日常会話をする。 3 新しい事項の概要をつかむ。 ①新しい単語の have/ play/ like を含む文を聞く。 ②have/play/like とカテゴリーの語を結び付ける。 カテゴリー：sports⇒like/play subject ⇒like things⇒have	【アー①】(行動観察) ○ Warm-up として、既習事項を含む質問文を復習し、次の活動にスムーズに移行できるようにする。 ○ これらの動詞は小学校でも触れているので、その知識を引き出す。 【共通①系統性】 小学校で音声として慣れ親しんだ have、like、play について復習をする。 【共通②興味・関心】 Can-Do リスト(系統表)を活用し、単元の目標を提示する。
展 開	4 話される本文の内容を聞き、一部を書き取る。 5 本文の解説を聞く ①in my bag/ the toy/ every day の説明を受ける。 ②代名詞 it が指すものを考える。 6 音読をする。 ① New words ② Model reading ③ Choral reading ④ Buzz reading ⑤ Pair reading ⑥ Individual reading 7 スピーチの準備をする。 ① 教師が行うスピーチのモデルを見てスピーチで気を付ける点を考える。 ② 持参した「自分の好きなもの」を使い個人・ペアで練習する。 ③ ペア練習では聞き手は気が付いた点をアドバイスする。 8 スピーチをする。 (My favorite thing / My important thing) 用意した実物や写真を使い数名が発表する。	○ Explanation では日本語で本文内容・語句・文法について確認する。 ○ 新出語句の発音をフラッシュカードで練習したのちに、文章を正しく音声化できるよう音読練習をする。 ○ 本文を次の speech のモデルとし、生徒自身の speech 練習にスムーズに移行できるように音読を繰り返し行う。 ○ スピーチの評価規準を示す。 ○ スピーチの注意点を考えさせる。 【イー①】(発表) 【共通③言語活動】 スピーチをする。 【共通④実生活】 自分の好きなものを英語で紹介する。 【共通⑥評価】 前回の自己紹介スピーチとの比較による評価をさせる。 【教科Ⅰ】 ペアワークを取り入れる。
ま と め	9 まとめ ① 口頭で練習したことを書いてまとめる。 ② ワークブックを使い、本時の内容をまとめる。 ③ 振り返りシートを記入する。 ④ 次回のスピーチ発表について知る。 10 挨拶をする。	【共通⑤学習習慣】 復習の仕方の指導をする。 【共通②興味・関心】 振り返りシートによる自己評価をする。

外国語2 中学校 「日記を書こう」

第2学年

【本単元の概要】

身近な話題をテーマとして生徒の興味・関心を高めるとともに、実生活とのつながりを分かりやすく位置付けた単元である。また、英語の使用度を高めるために、クラスルームイングリッシュを生徒から集め、授業を行うよう工夫するとともに、学び合いの学習活動として、ペアワークを多く取り入れる工夫も行う。

【系統表との主な関連】

- ・ 身近な場面における出来事や体験したことなどについて、自分の考えや気持ちなどを書くことができる（「書くこと」2①）。

1 単元の目標

一般動詞の過去形、be 動詞の過去形、過去進行形などをはじめ、今まで学んだ様々な表現を使って英語で日記を書く。

2 単元の評価規準

ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
① 過去に起きたことを英語で表現しようとしている。	① 一つの出来事について、より詳しく英文を書くことができる。 ② 自分の体験について英語で感想を書くことができる。	① 過去時制について理解している。 ② 英文日記の形式や書き方について理解している。

3 本事例における研究主題に迫るための手だて

	手だて	内容
定 外国語科で設 した手だて	I 英語の使用度を高めるための手だて	○ペアワークを複数回活用し、英語の発話の機会を増やす。 ○教師が英語で授業を進める中、クラスルームイングリッシュ表現リストを活用させ、生徒の英語の使用度も高める。
	II 学び合いの場の設定	○文と文や内容のつながりを確認したり、日記の内容を深めたりする場面で、互いの日記を読み、生徒同士が教え合い、学び合う場となるようにする。
各教科共通の手だて	① 中・高の系統的な指導	○系統表を活用し、現在学習していることが全体のどの位置付けになるかの見通しをもたせる。 ○高等学校での自分の考えを書く活動につなげるために、体験や感想を書くことができるように指導する。
	② 興味・関心の喚起	○系統表を活用し、目標を明示し、振り返りを行うことによって達成感をもたせる。 ○導入において、週末や昨日したことなど、既習の過去形を使って簡単な英会話を行う。
	③ 言語活動の充実	○掲示による他者への伝達という活動があることを明示した上で、体験したことや感想を英語で発表し、掲示物を作らせる。 ○英会話のペアワークにおいて、相手を意識した会話につながるように、つなぎ言葉やあいづちを用いるなどの工夫をして会話を続けることができるようにする。
	④ 実生活とのつながりの明確化	○学校全体で取り組んでいる日記の活動を英語学習に取り入れる。 ○使用教材やモデル文を活用し、体験したことや感想など、実生活に関する内容を日記形式で書かせる。
	⑤ 学習習慣の確立（主体的な学びの促進）	○毎日日本語で書いている日記を1～2文英語で書いてみるなど、主体的に英語の日記に取り組む姿勢や習慣を身に付けさせる。

	⑥ 評価の工夫	○日記の時制の正確さ、量、語彙が増えているか、表現が変容しているかを評価し、適切な振り返りの機会を与える。 ○振り返りシートの生徒の自己評価を次の指導に生かす。
--	---------	---

4 指導計画（3時間扱い）

次	時	学習のねらい	学習活動 研究主題に迫るための手だて	評価規準 (評価方法)
第一次	1	<ul style="list-style-type: none"> 一般動詞の過去形、be動詞の過去形、過去進行形など、過去時制の使い方が分かる。 昨日のことを英語で表現する。 日付など、英語で日記を書くときの形式や書き方が分かる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○一般動詞の過去形、be動詞の過去形、過去進行形など、過去時制の復習をする。 【共通①系統性】 既習事項を確認させる。 ○教科書の文を活用して、昨日のことを話したり、書いたりする活動をする。 【共通④実生活】 モデル文を活用して、自分が体験したことを英語で話したり書いたりさせる。 ○ワークシートを使って、英文日記を書くときの形式や書き方を学習する。 【共通⑤学習習慣】 日記の書き方を理解させる。 	エー①、② (行動観察)
	2	<ul style="list-style-type: none"> 英語で書かれた日記の概要が分かる。 特別な日について、英語で日記を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○過去時制の復習と英語で書かれた日記の概要を読み取る活動をする。 ○特別な日について、英語で質問し合った後、英語で日記を書く。 【共通③言語活動】 英語で質問し合う活動を行わせる。 【共通④実生活】 自分が体験したことを書かせる。 【教科Ⅰ】 ペアワークで質問をさせる。 	アー① (行動観察)
	3 (展開例)	<ul style="list-style-type: none"> 既習文法を定着させる。 特別な日について書いた日記を、さらに掘り下げた文章で書く。 展示用に作品を完成させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ディクテーションのテストを受ける。 ○特別な日について書いた日記にさらに1、2文を加え、さらに詳しい内容になるようにする。 【共通①系統性】 高校で段落を書く基礎を築くために、一つの出来事に対してもう1～2文加えさせる。 【共通④実生活】 自分が体験したことをさらに詳しく書かせる。 ○特別な日について書いた日記を発表し合う。 【共通③言語活動】 クラス全体で発表させる。 ○掲示物として、作品の清書をする。(宿題として完成させる。) 【共通⑥評価】 最初の日記との変容を評価させる。 	イー① (ワークシート記述分析、テスト) イー② (発表・作品)

<目標に関連させた自作のビンゴゲーム>

BINGO Useful words and phrases for diaries ②

Date _____ Class() No() Name()

B: with my family with my friends with my teammates with my dog by myself
 家族と 友だちと チームメイトと 犬と 自分で、自分ひとりで

I: there at home at school in Hokkaido Saturday, May 25
 そこで 家で 学校で 北海道で 5月25日、土曜日

N: before breakfast after supper at seven in the morning from eight to ten
 朝食の前に 夕食のあとに 7時に 午前中に、朝に 8時から10時まで

G: It was sunny. It was cloudy. It was rainy. It rained a lot. It was hot.
 天気だった。 くもりだった。 雨だった。 雨がたくさん降った。 暑かった。

O: I had a good time. I really enjoyed it. I enjoyed surfing very much. I tried my best.
 楽しい時間を過ごした。 とても楽しんだ。 サーフィンをとても楽しんだ。 全力を尽くした。

I had a hard time.
 つらい思いをした。大変な目にあった。

B					
I					
N			FREE		
G					
O					

<クラスルームイングリッシュの活用のワークシート>

Classroom English

英語で反応したり、英語で質問したりするなど、英語の使用度を高めるために、「こんなことを英語で言いたかった！」という表現があったら書いてください。





電子黒板を使って、英作文指導をする様子

5 展開例 第3時

(1) ねらい

- ・一般動詞の過去形、be動詞の過去形、過去進行形などをはじめ、今まで学んだ様々な表現を使って日記を書く。
- ・一つの出来事について、より詳しく文章を書く。

(2) 展開

学習活動		[評価規準] (評価方法) ○留意点 研究主題に迫るための手だて
導 入	<p>1 挨拶をする。 曜日、日付、天気を英語で言う。</p> <p>2 ディクテーション 既習文法を使用して、英文を1文書き取る。</p> <p>3 ゲーム性のある活動で過去形を学ぶ。</p> <p>4 会話 ①昨日起きたことなど、過去形を使って会話する。 ②つなぎ言葉やあいづちを用いるなどの工夫をして会話を続けることができる。</p>	<p>○ クラス全体に集中する雰囲気を作る。</p> <p>【教科Ⅰ】 導入で英語を話す雰囲気を作る。</p> <p>○ ワークシートは英語係が事前に配布する。 ○ 過去形が学べる自作のゲームを作る。</p> <p>○ 英語が得意な生徒、苦手な生徒を含め、3人の生徒に質問し、苦手な生徒と会話が成立したら、全員が理解できたと判断する。</p> <p>【共通④実生活】 過去時制を使って会話をさせる。 【教科Ⅰ】 ペアワークを活用する、クラスルームイングリッシュを活用する。 【教科Ⅱ】 教え合う場を設定する。</p>
展 開	<p>5 前回書いた「特別な日の日記」を各自で読む。 ①添削された所を読み取り、分からない場合は質問する。 ②文と文のつながりに注意して日記が書けているか確認する。</p> <p>6 本時の目標を知る。</p> <p>7 「特別な日の日記」を改善する。 ①より詳しい内容になるように、1文書き加える。</p> <p>8 「特別な日の日記」を発表する。 ①内容が伝わるように発表する。</p> <p>②友達の日記の概要を聞き取る。</p>	<p>○ 添削されたところをしっかりと理解できるようにする。</p> <p>【共通②興味・関心】 本時の目標を提示する。</p> <p>【イー①】 (行動観察) ○ 辞書を上手に活用させる。 ○ 前回よりも内容が詳しくなるようにする。</p> <p>【共通①系統性】 高校で段落を書くための基礎を築くために、一つの出来事に対してもう1～2文加えさせる。</p> <p>【イー②】 (発表) ○ 「特別な日の日記」の内容が伝わりやすくなるように、写真や絵を使うとよいことを事前に伝えておく。</p> <p>【共通③言語活動】 発表させる。 【共通⑥評価】 最初の日記よりも量や語彙が増え、表現が変容しているかを評価させる。</p>
ま と め	<p>9 日記の清書 ケント紙に、展示用の作品として日記を清書する。</p> <p>10 宿題の連絡 展示用の作品として、日記を完成させてくる。</p> <p>11 振り返りシートの記入をする。</p> <p>12 挨拶をする。</p>	<p>○ 英文日記の形式や書き方に注意させる。</p> <p>【共通⑥評価】 振り返りシートの自己評価を指導に生かす。</p> <p>○ 生徒の意欲や積極的な態度をほめる。</p>

外国語3 英語Ⅱ 高等学校「Wilderness in a Bottle」第2学年

【本単元の概要】

高等学校での英語の学習として、社会生活に関する話題をテーマとして生徒の興味・関心を高めるとともに、調べ学習も取り入れた単元である。また、英語で授業を進めるために、視聴覚教材やクラスルームイングリッシュを工夫するとともに、学び合いの学習活動として、ペアワークを多く取り入れる工夫も行う。

【系統表との主な関連】

- ・ 説明や描写の表現を工夫して相手に効果的に伝わるように話すことができる（「話すこと」5③）。
- ・ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づいて、情報や考えなどについて話し合うなどして結論をまとめることができる（「4技能の統合」5①）。

1 単元の目標

- (1) 日本でのシードバンクの設立の是非について、グループで話して結論をまとめる。
- (2) 根拠を示すなどの工夫をして、相手に効果的に伝わるように話すことができる。

2 単元の評価規準

ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
① ペアワークやグループワークにおいて間違いを恐れず積極的にコミュニケーションを図ろうとしている。	① 教師や他の生徒がする質問に対して英語で応対し、自分の意思を伝えることができる。 ② 教科書の内容と自分が調べたことを結び付け、自分の意見や感想を述べることができる。	① 教師の英語の指示に従ったり、他の生徒がした質問に対して答えたり、聞き返したりすることができる。	① 仮定法過去についての知識が身に付いている。

3 本事例における研究主題に迫るための手だて

	手だて	内容
た 外国語科で設定し	I 英語の使用度を高めるための手だて	○ペアワークやグループワークを複数回取り入れる。 ○グループワークにおいて、生徒それぞれに役割を与え、発言がしやすいようにする。
	II 学び合いの場の設定	○語彙確認のペアワークにおいて、2人で1枚のワークシートに取り組みせ、互いに教え合う環境を作る。 ○グループワークにおいて、他の生徒が調べてきた内容を聞き、自分が調べた内容や教科書の内容と比較し、ディスカッションをしながら自らの考えをまとめさせる。
各教科共通の手だて	① 中・高の系統的な指導	○系統表を活用し、現在学習していることが全体のどの位置付けになるかの見通しをもたせる。
	② 興味・関心の喚起	○系統表を活用し、目標を明示し、振り返りを行うことによって達成感をもたせる。 ○ゲーム性のある活動を取り入れる。 ○オーラルイントロダクションにおいて、画像を見せながら学習に関する情報を示す。
	③ 言語活動の充実	○グループディスカッションにおいて、各自が持参した新聞記事等を簡単に要約し、概要を他の生徒に説明させる。 ○ペアワークやディスカッションにおいて、つなぎ言葉やあいづちを用いるなどの工夫をして、会話を続けることができるようにさせる。

④ 実生活とのつながりの明確化	○毎時間の最初に日常会話を行い、自分のことについて近くの席の生徒に伝えさせる。 ○他教科（生物）で行った実験等の内容と関連付けながら、文章を深く理解できるようにする。 ○実際の新聞記事等の情報と、教科書の内容を比較し、自分の考えや意見を述べる学習を設定する。
⑤ 学習習慣の確立 （主体的な学びの促進）	○新出語彙を授業前に辞書で調べてくるよう指示する。 ○授業後、家庭で音読練習をさせる。 ○教科書の題材と関連する新聞記事等を探し、読むようにさせる。
⑥ 評価の工夫	○プレゼンテーションのテストで評価するポイントを事前に知らせ、適切に準備できるように促す。 ○グループディスカッション等において、情報や考えを相手に説明し、意見を言うことができたかどうかを振り返ることができる機会を与える。

4 指導計画（7時間扱い）

次	時	学習のねらい	学習活動	評価規準 （評価方法）
			研究主題に迫るための手だて	
第一次	1	<u>導入・Section 1</u> ・生物多様性について概要を捉える。 ・絶滅した動物を、DNAを用いてよみがえらせることができるのは現実に可能なのかを、想像する。 ・仮定法過去の表現を理解する。	○教師のオーラルイントロダクションを聞き、質問に答え、生物多様性について生物の授業（既習事項）と関連させて考え、背景となる知識を活性化する。 ○絶滅した動物をよみがえらせることが可能だと思うか、ペアで互いに意見を聞く。あいづちを打ったり、賛成したりして会話を続ける。 【共通②興味・関心】 画像を用いてオーラルイントロダクションを行わせる。 【共通③言語活動】 つなぎ言葉等を用いてペアワークを円滑に行わせる。 【共通④実生活】 他教科の授業と関連させ、主題を考えさせる。 【共通⑤学習習慣】 未知の単語を辞書で調べさせておく。	アー① （行動観察） エー① （ワークシート記述）
	2	<u>Section 2</u> ・古代のえんどう豆から種を取り出し、生き返らせたしくみを知る。 ・シードバンク及び植物保全の意義を理解する。 ・<助動詞+完了形>が表す意味を理解する。	○前時の内容を要約し、感想や意見を伝える。 ○すばやく教科書本文を読み、教師の問いの答えを本文から見付け出す。 【共通①系統性】 会話練習を中学から継続して行う。 【教科Ⅰ】 前時の要約を前に出て発表させる。発表者と聞き手の間で質疑応答を行わせる。 【教科Ⅱ】 語彙確認のペアワークで、互いに教え合いながらワークシートを完成させる。 【共通⑤学習習慣】 家庭での音読及び要約作成を指示する。	ウー① （行動観察、ワークシート記述）
	3	<u>Section 3</u> ・生物多様性の損失が生む人間への影響を理解する。 ・シードバンクの有用性を理解する。	○前時の内容を要約し、それに対する感想や意見を伝える。 ○シードバンクの長所を教科書から読み取る。 第2時と同様	アー① （行動観察）

第三次	4	<p>Section 4</p> <ul style="list-style-type: none"> 一つの品種内の多様性の保持のメリットを理解する。 シードバンクによって可能になることと、不可能なことを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○前時の内容を要約し、それに対する感想や意見を伝える。 ○シードバンクの長所と短所が何かを話し合い、その短所を補う他の方法はないかをペアで考える。 <div style="border: 1px solid black; text-align: center; padding: 5px;">第2時と同様</div>	ウー① （行動観察、ワークシート記述）
	5 （展開例）	<p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> 生物多様性を保全するために、日本に新しいシードバンクを設立すべきか否かでディスカッションを行い、まとめた結論を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○日本での生物多様性の保全についてそれぞれの意見を交換し、グループで結論付ける。 ○グループで出した結論に根拠となる理由を述べて発表する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【教科Ⅰ】 生徒一人一人に役割を与え、ディスカッションを行わせる。</p> <p>【教科Ⅱ】 他の生徒が調べてきた内容を聞き取ったり、自分が調べてきた内容を述べさせたりしながら、グループの考えをまとめさせる。</p> <p>【共通③言語活動】 聞く、主張する、あいづちを打つ、聞き直す等を指示し、ディスカッションを続けさせる。</p> <p>【共通⑥評価】 ディスカッションを振り返らせる。</p> </div>	イー① （行動観察、ワークシート記述）
	6・7	プレゼンテーションテストをする。	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書の内容と、自分が調べたことを結び付け、自分の意見や感想を述べる。 ○聞き手に必ず質問をし、聞き手又は教師も発表者に質問をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【共通⑥評価】 事前に評価ポイントを知らせる。</p> </div>	イー② （テスト）


5 展開例 第5時

(1) ねらい

- ・シードバンクを日本で新たに作るべきか否かについて話し合い、結論をまとめる。
- ・根拠を示して相手に効果的に伝わるように工夫して発表する。

(2) 展開

	学習活動	【評価規準】（評価方法）○留意点 研究主題に迫るための手だて
導 入	1 挨拶をする。 2分間、ペア同士で自由なテーマで会話をする。 2 本時の目標を知る。 3 前時の語彙を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ○日本語の使用は禁止する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【教科Ⅰ】 導入で英語を話す雰囲気をつくる。</p> <p>【共通④実生活】 実際に体験したことを会話で話させる。</p> <p>【共通③言語活動】 つなぎ言葉やあいづちを用いて話すよう指示する。</p> <p>【共通①系統性】 中学校から行っているウォームアップを行う。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○定義から単語を類推する活動を2人1組で行わせる。 ○英単語の定義を言い、生徒に挙手させ、その単語や熟語を答えさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【共通⑤学習習慣】 家庭学習で調べた新出語句を確認する。</p> <p>【教科Ⅱ】 ペアで教え合いながら表を完成させる。</p> </div>

<p>展開 I</p>	<p>4 前時の内容の復習をする。 ① 英問英答 ② 音読 ③ プレゼンテーション</p>  <p>自分の調べたことを英語で発表する様子</p>	<p>○教師は各列一人ずつ、生徒に質問をする。生徒は教師の英語の質問に対して挙手して答える。答えたら一つ前に座っている生徒が答える。身近なことと関連させた質問も混ぜる。 ○イントネーションに留意しながら音読ができているかを観察する。</p> <p>【共通⑤学習習慣】 家庭でも音読練習を行うよう促す。</p> <p>○聞き手とやり取りしながら、前時の内容を発表させる。平易な英語で相手に伝わるよう意識しながら発表しているか、自分の意見や感想を述べられているかを確認する。</p> <p>【教科 I】 生徒に発表させる機会を与える。 【共通⑥評価】 評価規準に沿ってプレゼンテーションを行わせる。 【共通①系統性】 中学校でも行っていたやり取りを高校でも行う。</p>
<p>展開 II</p>	<p>5 グループワークを通じて、新たなシードバンクを設立すべきか否かを話し合う。 ① 質問者はシードバンクの長所・短所、他の活動の長所・短所の情報を聞き出し、ジャッジはタスクシートに記入する。 ② ジャッジは不明確な部分を再度聞き直す。 ③ ジャッジと質問者は、聞き出した情報を基に両者を比較し、どちらがより説得力があったかを話し合う。 ④ 意見発表者2名は、お互いの意見を聞いてどちらがより説得力があったと思うか、比較し、話し合う。 ⑤ グループで結論を出す。</p> <p>6 発表する。 ① グループで出した結論に理由を付けて発表する。 ② 発表者はクラスに質問をする。 ③ 聞き手は発表者に対して必ず何か質問をする。</p>	<p>○質問者、意見発表者、意見発表者、ジャッジ（メモを取る人）といった役割をグループ一人一人に与える。</p> <p>【共通①系統性】 中学校での「身近な題材を使って意見を述べ合う」活動から「結論をまとめる」活動に進む。 【共通③言語活動】 英語で円滑にグループディスカッションが行えるように役割を決めさせる。 【共通⑤学習習慣】 事前に新聞記事等を持参するよう指示する。 【共通④実生活】 実際の新聞記事等からの情報を読み取らせる。 【教科 II】 メンバーの情報を聞き、タスクを完成させる。</p> <p>【イー①】（行動観察、ワークシート記述分析）</p> <p>【共通③言語活動】 聞き手を意識し、間違いを恐れずに自分の意見を伝えさせる。聞き手と発表者のやり取りを行わせる。</p>
<p>まとめ</p>	<p>7 振り返りシートを記入する。 8 挨拶をする。</p>	<p>○積極的にグループワークに関われたかを振り返る。 【共通⑥評価】 グループディスカッションを自ら振り返らせる。</p> <p>○生徒の意欲や積極的な態度を褒める。</p>

英語 「英語で表現できる実践的な運用能力に関する系統表」

		中学校・高等学校		
		1	2	3
英語で表現できる実践的な運用能力	<聞くこと> 状況、の踏分け、相手との関係、状態、など、把柄、や、なて伝を、背景、情えの、と、力、場、背、表、ま、手、こ、る、る	① ゆっくり話されているときに、強勢、イントネーション、区切りなど基本的な英語の音声の特徴を捉え、と正しく聞き取ることができる。 ② 話し手に聞き返すなどして内容を理解することができる。	① ややゆっくり話されたときに、強勢、イントネーション、区切りなど基本的な英語の音声の特徴を捉え、正しく聞き取ることができる。 ② 自然な口調で話されたり読まれたりする英語を聞いて、情報を正確に聞き取ることができる。	① リズムやイントネーションなどの英語の音声的な特徴、話す速度、声の大きさなどに注意しながら聞くことができる。 ② 事物に関する紹介や対話を聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりすることができる。 ③ 事実と意見を区別して聞くことができる。
	<話すこと> 状況、の踏分け、相手との関係、状態、など、把柄、や、なて伝を、背景、情えの、と、力、場、背、表、ま、手、こ、る、る	① 強勢、イントネーション、区切りなど基本的な英語の音声の特徴を捉え、正しく発音することができる。 ② 身の回りのことについて、聞き手に簡潔に伝えることができる。 ③ 身近なテーマについてスピーチをすることができる。	① 基本的な英語の音声の特徴を捉え、必要に応じて日本語との差異を意識して、正しく発音することができる。 ②-1 自分の考え、気持ち、事実などを聞き手に適切に伝えることができる。 ②-2 つなぎ言葉を用いるなどのいろいろな工夫をして話を続けることができる。 ③ 体験したことなどについてスピーチをすることができる。	① 基本的な英語の音声の特徴をとらえ、正しく発音し、意図や感情を明確に伝えることができる。 ② 自分の考え、気持ち、事実などを聞き手に正しく伝えることができる。 ③ 与えられたテーマについて自分の意見や主張を加えてスピーチをすることができる。
	<読むこと> 状況、の踏分け、相手との関係、状態、など、把柄、や、なて伝を、背景、情えの、と、力、場、背、表、ま、手、こ、る、る	① 書かれた内容を、その内容が表現されるように音読することができる。 ② 会話文や物語のあらすじなどを取り出すことができる。 ③ 文字や符号を識別し、正しく読むことができる。	① 書かれた内容を考えながら黙読したり、その内容が表現されるように音読したりすることができる。 ② 物語のあらすじや説明文の大切な部分などを正確に読み取ることができる。	① 書かれた内容を考えながら黙読したり、その内容が表現されるように音読したりすることができる。 ② 話の内容や書き手の感想などに対して賛否やその理由を示したりすることができるよう、書かれた内容や考え方を捉えることができる。
	<書くこと> 状況、の踏分け、相手との関係、状態、など、把柄、や、なて伝を、背景、情えの、と、力、場、背、表、ま、手、こ、る、る	① 自分や身の回りのことについて書くことができる。 ② 語と語のつながりなどに注意して、正しく文を書くことができる。 ③ 文字や符号を識別し、語と語の区切りなどに注意して正しく書くことができる。	① 身近な場面における出来事や体験したことなどについて、自分の考えや気持ちなどを書くことができる。 ② 自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を適切に書くことができる。	① 身近な場面における出来事や体験したことなどについて、自分の意見や主張を加えて書くことができる。 ② 自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して正しく文章を書くことができる。
	<4技能の統合>	① 質問や依頼などを聞いて適切に応じることができる。 ② 伝言や手紙などの文章から書き手の意図を理解し適切に応じることができる。	① 聞いたり読んだりして、メモをとったり、感想、賛否やその理由を書いたりなどすることができる。	① 聞いたり読んだりしたことなどについて、問答したり意見を述べたりすることができる。

中学校・高等学校		
4	5	6
<p>① リズムやイントネーションなどの英語の音声的な特徴、話す速度、声の大きさなどに注意しながら聞くことができる。</p> <p>② 事物に関する紹介や対話を聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点を捉えたりすることができる。</p> <p>③ 事実と意見を区別して聞くことができる。</p>	<p>① 英語の音声的な特徴や内容の展開などに注意しながら聞くことができる。</p> <p>② 事物に関する紹介や報告、対話や討論を聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりすることができる。</p> <p>③ 未知の語の意味を推測したり背景となる知識を活用したりしながら聞くことができる。</p>	<p>① 社会的な話題や時事問題について話されている対話や討論などを聞いて、情報や考えなどの要点や詳細を捉えることができる。</p>
<p>① リズムやイントネーションなどの英語の音声的な特徴、話す速度、声の大きさなどに注意しながら話すことができる。</p> <p>② 事実と意見を区別して話すことができる。</p> <p>③-1 与えられた話題について、即興で話すことができる。</p> <p>③-2 聞き手や目的に応じて簡潔に話すことができる。</p> <p>④ 発表の仕方や発表のために必要な表現などを学習し、実際に活用することができる。</p>	<p>① 英語の音声的な特徴や内容の展開などに注意しながら話すことができる。</p> <p>②-1 多様な考え方ができる話題について、立場を決めて意見を述べることができる。</p> <p>②-2 説明や描写の表現を工夫して相手に効果的に伝わるように話すことができる。</p> <p>③ 与えられた条件に合わせて、即興で話すことができる。</p> <p>④ 発表の仕方や討論のルール、それらの活動に必要な表現などを学習し、実際に活用することができる。</p>	<p>②-1 多様な考え方ができる話題について、立場を決めて意見をまとめ、相手を説得するために意見を述べ合うことができる。</p> <p>②-2 伝えたい内容を整理して論理的に話すことができる。</p> <p>③ 聴衆の様子を見て、発表の内容を即興で調整することができる。</p>
<p>① 内容の要点を示す語句や文、つながり示す語句などに注意しながら読むことができる。</p> <p>② 聞き手に伝わるように音読することができる。</p> <p>③-1 説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点を捉えたりすることができる。</p> <p>③-2 事実と意見を区別して読むことができる。</p>	<p>① 論点や根拠などを明確にするとともに、文章の構成や図表との関連などを考えながら読むことができる。</p> <p>② 聞き手に伝わるように音読や暗唱をすることができる。</p> <p>③-1 説明、評論、物語、随筆などについて速読したり精読したりするなど目的に応じた読み方をすることができる。</p> <p>③-2 未知の語の意味を推測したり背景となる知識を活用したりしながら読むことができる。</p>	<p>① 社会的な話題や時事問題、自分の専門的な分野について書かれている説明や評論などの必要な情報や論点を読み取ることができる。</p> <p>② 目的に応じた読み方を選択して、正確に読むことができる。</p>
<p>① 内容の要点を示す語句や文、つながり示す語句などに注意しながら書くことができる。</p> <p>②-1 事実と意見を区別して書くことができる。</p> <p>②-2 読み手や目的に応じて簡潔に書くことができる。</p> <p>③ 書いた内容を読み返して校正することができる。</p>	<p>① 説明や描写の表現を工夫して、相手に効果的に伝わるように書くことができる。</p> <p>②-1 論点や根拠などを明確にしながらかくことができる。</p> <p>②-2 主題を決め、様々な種類の文章を書くことができる。</p> <p>③ 書いた内容を読み返して、読み手を意識して推敲することができる。</p>	<p>① 文章の構成を考えながらかくことができる。</p> <p>②-1 図表との関連を考えながらかくことができる。</p> <p>②-2 自分の専門的な分野について、複雑な内容の文章を書くことができる。</p> <p>③ 書いた内容を読み返して、論理性を意識して推敲することができる。</p>
<p>① 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり、意見の交換をしたりすることができる。</p> <p>② 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、簡潔に書くことができる。</p> <p>③ 聞いたり読んだりした内容について、そこに示されている意見を他の意見と比較して共通点や相違点を整理して発表することができる。</p>	<p>① 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合うなどして結論をまとめることができる。</p> <p>② 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、まとまりのある文章を書くことができる。</p> <p>③ 聞いたり読んだりした内容について、そこに示されている意見を他の意見と比較して共通点や相違点を整理したり、自分の考えをまとめ、発表することができる。</p>	<p>① 聞いたり読んだりしたこと、学んだり経験したことに基づき、情報や考えなどをまとめ、発表することができる。</p> <p>② 発表されたものを聞いて、質問したり意見を述べたりすることができる。</p> <p>③ 相手の立場や考えを尊重し、互いの発言を検討して自分の考えを広げるとともに、課題の解決に向けて考えを生かし合うことができる。</p>